エコアクション21

環 境 経 営 レポート

〖 2023年度　2023年　9月1日　～2024年　8月31日 〗

☆浅間山　噴火時避難ドーム

発行：　2024年　11月29日

堀 越 建 設 株 式 会 社

目　次

1, 環境経営方針 …… 1

2, 事業内容 …… 2

　　組織概要 …… 2

3, 活動組織 …… 3

4, 環境経営目標・環境経営計画 …… 4

5, 環境活動の取組結果と評価 …… 5

6, 環境関連法規への違反・訴訟等の有無 …… 6

7,代表者による全体の取組状況の評価と
見直し・指示 …… 7

1, 環 境 経 営 方 針

1, 環境理念

我社は、土木・建設に従事する企業として、地域の環境破壊・汚染を引き起こす可能性の高い業種であることを自覚し、この自然豊かな信州を汚すことなく次の世代に受け継がれるように、自然との共生・循環型の社会構築のために社員一丸となり未来に希望の持てる社会を創造していく。

2, 環境経営方針

我社が行うすべての事業活動において、環境負荷低減を継続的に行い、常に時代に合った新技術を取り入れられるようにコミットメントしていきます。

① 環境負荷削減のため省エネルギー・二酸化炭素排出量削減・建設廃棄物の分別による減量化、およびリサイクル活動の推進を行います。

② 環境関連法規を遵守します。

③ 我社の環境理念・環境経営方針を社員及び協力業者に周知を徹底し、実践するためのミーティング等を実施します。

④ グリーン購入を積極的に行う。(地産購入・地元協力業者の積極的活用)

制定日
2013年 3月27日
改定日
2020年 11月20日

堀越建設株式会社

代表取締役社長

堀 越 光 一

2, 事 業 内 容

組 織 概 要

(1)　会　社　名　　堀越建設株式会社

(2)　代　表　者　　代表取締役　　堀越 光一

(3)　所　在　地　　〒　384-0808
長野県 小諸市 大字 御影新田　447-1
TEL ： 0267-23-4092
FAX ： 0267-23-4093

(4)　環境管理責任者及び担当者

環境管理責任者　総務付部長　　堀 越　圭一

担　当　者　　総務付部長　　堀 越　圭一

連　絡　先　　TEL・FAX　　所在地と同じ

E-mail　　m-hrks@horikoshikensetsu.co.jp

(5)　事業内容

『 特定建設業（土木、建築、大工、左官、とび・土工、石、屋根、タイル・れんが・ブロック、鋼構造物、鉄

、舗装、しゅんせつ、板金、ガラス、塗装、防水、内装仕上げ、熱絶縁、建具、水道施設、解体）

(6)　事業規模

規模	単位	2021	2022	2023
売上高	百万円	544	639	651
従業員	人	28	27	27
床面積　事務所		鉄骨2階建て　延べ　482㎡		

〈元請工事・業務等〉

上水道管路布設工事	1件	市道下水道管渠更生工事工事	1件
道の駅トイレ改修工事	1件	市立中学校大規改修集工事	1件
県営住宅屋根・外壁改修工事	3件	ソーラー発電所造成工事	1件
市道道路改良工事	1件		

〈下請工事・業務等〉

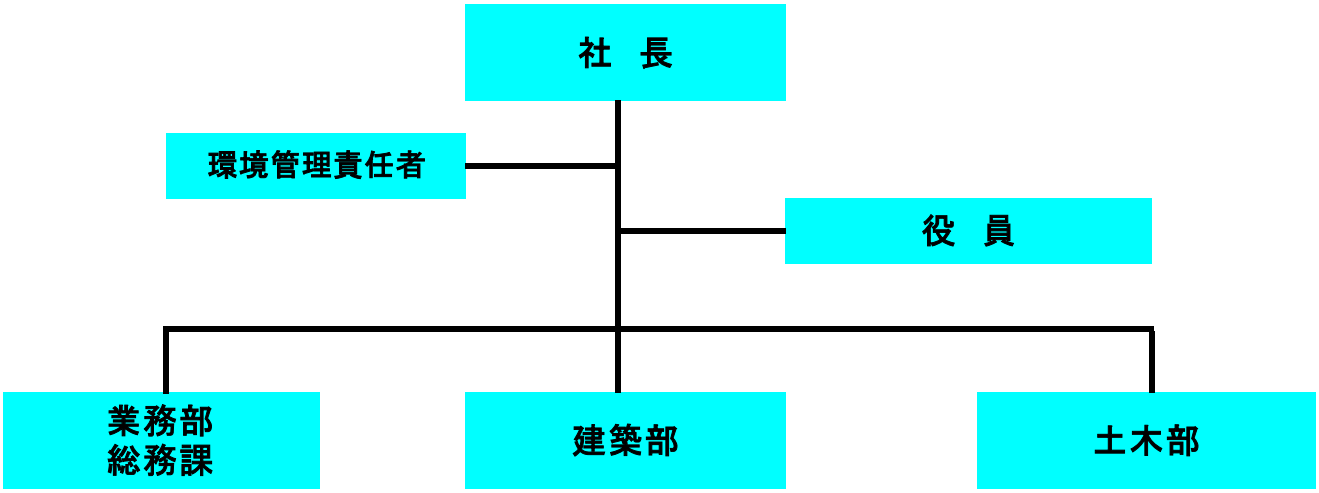
香料工場新築工事	1件	別荘新築工事設工事	3件
リゾートマンション新築工	5件	私立高校改修工事	1件
美術館耐震化工事	1件	ホテル新築工事	1件

(7)　認証登録の対象組織

登録組織名　：　　堀越建設株式会社
現場代理人事務所 、資材置き場

3, 活 動 組 織

実施体制及び役割･責任･権限表



組織の構成員	役割･責任･権限
社　　長	①　環境経営に関する統括責任者 ②　環境経営方針を作成し、その遵守･実施･運用の意志を公にする、 ③ 環境管理責任者を任命するとともに、環境経営組織、役割、責任を決める ④ 必要な経営資源（人的資源、専門技能、インフラ、資金）を用意する ⑤ 環境経営目標･環境経営活動計画書の承認 ⑥ 活動の実績を環境管理責任者に求め、代表者による全体の評価と見直しを行い、必要な指示を行う ⑦ 環境経営活動レポートの承認
環境管理責任者	① 環境マネジメントシステムの確立･取組･維持 ② 環境経営目標･環境経営活動計画書の策定 ③ 環境経営目標･環境経営活動の達成状況の確認と是正処置 ④ 環境関連法規等の取りまとめ ⑤ 環境経営活動の取組結果を代表者に報告 ⑥ 環境経営活動レポートの作成
各部門責任者	① 環境経営方針の周知 ② 部門の環境経営活動計画の策定 ③ 環境経営活動計画の実施及び達成状況の報告 ④ 部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
従業員	① 環境経営方針の理解と環境経営活動の重要性を自覚する ② 環境負荷削減のため、資源のムダな消費を削減する意識を持って活動する ③ 決められたことを守り、自主的･積極的に活動へ参加する

4，環境経営目標・環境経営計画

1） 環境経営目標値

＊　目標値は2018年を基準として2021年からの今後3年間の目標値として策定した。

【項目別目標値】

（年度単位　9月～翌年8月）

項　　目		単　位	2018年 基準年	2021年 目標値	2022年 目標値	2023年 目標値
電　　力	購入電力	kwh	32,481.0	基準年 同　等	基準年 同　等	基準年 同　等
	排出量	kg-CO2	14,681.4			
ガソリン	使用量	L	46,203.0	基準年 5%削減	基準年 8%削減	基準年 10%削減
	排出量	kg-CO2	107,191.0			
軽　　油	使用量	L	60,774.0	基準年 10%削減	基準年 10%削減	基準年 10%削減
	排出量	kg-CO2	156,796.9			
灯　　油	使用量	L	6,965.0	基準年 同　等	基準年 同　等	基準年 同　等
	排出量	kg-CO2	17,342.9			
LPガス	使用量	m^3	65.0	同上	同上	同上
	排出量	kg-CO2	195.0			
上下水道	購入水道量	m^3	178.0	同上	同上	同上
CO2排出量	総排出量	kg-CO2	296,207.1	275,167.9	271,952.2	269,808.4
産業廃棄物排出量		t	389	請負工事量 による	請負工事量 による	請負工事量 による

＊2018年　中部電力二酸化炭素調整後排出係数0．452kg－CO2/kwhを使用

【CO2総排出量目標】

	単位	2018年 基準年	2021年 目標値	2022年 目標値	2023年 目標値
合　　計	kg-CO2	296,207.1	基準年	基準年	基準年
売り上げ単位当り	kg-CO2/百万円	532.7	7.1%削減	8.2%削減	8.9%削減

2） 環境経営計画

①，CO2削減

【電力によるCO2排出量の削減】

・昼間外部が明るい時間帯の事務所・各部署の照明を一部消灯する。
・冷房機に頼らない自然換気による温度調整の推奨。
・OA機器の不使用時の電源OFF.新規OA機器野導入。
・街灯等の自動点灯をやめ、必要時だけのスイッチON/OFFとする。通路のソーラー電灯導入
・クールビズの推奨。　（制服の夏冬用至急の前倒し）
・ソーラー発電等を利用した仮設電源への利用
・LEDの積極的活用

【灯油使用量減によるCO2排出量の削減】

・暖房時の適温設定（設定温度25℃）
・時間予約しての暖房を止め、ドア・窓の開放時間の短縮や使用していない部屋の暖房器は使用しない。
・ウオームビズの推奨。（制服の夏冬用至急の前倒し）
・古くなった暖房器の入れ替え。

【LPガスのCO2排出量の削減】

・やかんの湯沸かしをガスでなく電気を使い沸騰時間の短縮に努める。
・舗装工事等でのLPガスの使用を減らす、温度管理の徹底。

【燃料使用量（ガソリン・軽油のCO2排出量の削減】

・燃料効率の良い車又は重機への変更（普通車→軽自動車）
・急発進・急停車の防止（法定速度での車の運転）
・アイドリングストップ・エコドライブの推奨。
・車両点検の実施、過積載の禁止。
・重機の使用計画の徹底（無駄な重機を投入しない）

【水の排出量の削減】

・節水弁の取付
・漏水のチェック、節水の推奨。

②，環境経営活動

【廃棄物の削減】

・分別収集によるリサイクル化の推奨。
・コピー用紙の再利用及び両面コピーの実施。
・ペーパレス化の実施。（FAXでなくメール等の使用）
・説明書・カタログ等の電子化

【グリーン購入】

・リサイクル品の活用。
・エコマーク商品のの購入の推奨。
・地産購入を進める （地元製品・地元業者を下請けにできるだけ使う。）

【地域環境への貢献】

・近隣地域の環境ボランティアへの積極的参加。
（水路掃除へのダンプの提供、草刈り・ゴミ拾いの参加など）
・植樹祭への参加。
・ビオトープ活動への参加・協力。
・消防団等への参加の推奨。
・地元祭事の協力。

5，環境経営活動の取組結果と評価

1，環境経営活動の取組結果

【項目別目標結果】

（年度単位　9月～翌年8月）

項　　目		単　位	2018年 基準年	2023年 目標値	2023年 実績値	対基準年比	達成状況 評価
電　　力	購入電力	kwh	32,481.0	32,481.0	**43,806.0**	26%	×
	排出量	kg-CO2	14,681.4	14,681.4	**19,800.3**		
ガソリン	使用量	L	46,203.0	41,582.7	**34,851.0**	-25%	○
	排出量	kg-CO2	107,191.0	96,471.9	**80,854.3**		
軽　　油	使用量	L	60,774.0	54,696.6	**24,756.0**	-59%	○
	排出量	kg-CO2	156,796.9	141,117.2	**63,870.5**		
灯　　油	使用量	L	6,965.0	6,965.0	**6,367.0**	-0.9%	○
	排出量	kg-CO2	17,342.9	17,342.9	**15,853.8**		
LPガス	使用量	m^3	65.0	65.0	**101.0**	36%	×
	排出量	kg-CO2	195.0	195.0	**303.0**		
上下水道	購入水道量	m^3	178.0	178.0	**185.0**	4%	×
CO2排出量	総排出量	kg-CO2	296,207.1	269,808.4	**180,681.9**	-39%	○
産業廃棄物排出量		t	389	請負工事量 による	**395.0**	2%	

【CO2総排出量目標結果】

	単位	2018年 基準年	2023年 目標値	2023年 実績値	対基準年比	達成状況 評価
合　　計	kg-CO2	296,207.1	269,808.4	**180,681.9**	-39%	○
売り上げ単位当り	kg-CO2 /百万円	532.7	489.0	**277.5**	-48%	○

環境経営活動の取組結果(本社・現場実績)

（年度単位　9月～翌年8月）

項　　目		単　位	2023年 本社実績	2023年 現場実績	2023年 総合実績値	基準年対比	達成状況 評価
電　　力	購入電力	kwh	36,835.0	6,971.0	**43,806.0**	26%	×
	排出量	kg-CO2	16,649.4	3,150.9	**19,800.3**		
ガソリン	使用量	L	34,833.0	18.0	**34,851.0**	-25%	○
	排出量	kg-CO2	80,812.6	41.8	**80,854.3**		
軽　　油	使用量	L	9,092.0	15,664.0	**24,756.0**	-59%	○
	排出量	kg-CO2	23,457.4	40,413.1	**63,870.5**		
灯　　油	使用量	L	1,199.0	5,168.0	**6,367.0**	-0.9%	○
	排出量	kg-CO2	2,985.5	12,868.3	**15,853.8**		
LPガス	使用量	m^3	30.0	71.0	**101.0**	36%	×
	排出量	kg-CO2	90.0	213.0	**303.0**		
上下水道	購入水道量	m^3	159.0	26.0	**185.0**	4%	×
CO2排出量	総排出量	kg-CO2	123,994.9	56,687.1	180,681.9	-39%	○
産業廃棄物排出量		t	0	395	**395.0**	2%	

2，取組状況の評価と次年度の取組内容

(1)　**電　力**　（目標値2018年度比+26%）

・昨年度は+46%だったので20%減ってはいるがまだ消費電力は多い。今年も猛暑であったが、社内の電力消費は多少の増加であったが、現場の消費は半分に減っている。現場での増減は工事の時期にも影響されるので、エアコンや暖房に使われる電力は一概に多いとか少ないでは評価できないが、今年も猛暑で昨年よりも暑い時期が続いたので、昨年より減ったことは評価できる。これからも気候変動で夏の猛暑が続く考えると、今の状況より増やさないことが重要と考える。

(2)　**ガソリン**　（目標値2018年度比-25%）

・ガソリンは目標値より17%減っているが、これは昨年の使用量と同じ数値である。燃料費が高止まりしている状況でこれだけ削減できていれば、経営者としてはありがたいことである。
多分今ある車での使用量は限界である可能性が高い、以降はこれ以上の削減より増やさない努力が必要と考えます。又これからの時代車の乗り換えは、より燃費性能の良いものに変えることは必要です。

(3)　**軽　油**　（目標値2018年度比-59%）

・軽油は目標値10%削減が59%削減になり昨年より8％も使用量が減った結果となった。売り上げは増加したが、工事の内容や使う重機などで大きく使用量が変わってきた結果だと思われる。又、下請けを使う工事が多いと自然と減る傾向にある。
結果予想よりかなり削減できており、軽油の使用量は工事の規模・工種・工期の影響受けるが、良い年ばかりではないはずなので、引き続き燃料削減に取り組めるように適切な監視を行い無駄のない施工計画をたてて、それを実行してもらいたい。

(4)　**灯　油**　（目標値2018年度比-0.9%）

・灯油は目標値基準年同等でしたが、結果0.9％削減でした。昨年度と比較すれば会社の使用量はかなり削減できたが、約1％の削減は誤差の範囲であり目標値と同じと考えられる。会社の使用量は多少の違いがあるが、やはり現場の使用量は電気と同じで工事の時期に影響される部分が多いので無理やり減らせとは、作業効率もあるので無理強いはできない。

(5)　**LPガス**　（目標値2018年度比36%）

・LPガスは目標値基準年同等でしたが、結果36％の増加となった、理由とすれば昨年は工事ではほとんど使われなかったが、今年は工事で使われた量が多かった。実際会社の使用量はほぼ昨年並みであったので、増えたのは工事使用量である。
結果、LPガスも工事の種類や工程で増減するので現場での増えた減ったは仕方ないと考えます。

(6)　**上下水道**　（目標値2018年度比4%）

・水道使用量は目標値基準年同等でしたが、結果4％増加となり昨年よりか増えた結果となりました。
会社の使用量は昨年並みでしたが、現場の使用量が増えた結果です。建築工事が多いと増えるうですが、仕事で使われるものは品質上減らすことはできないので仕方ないと考えます。又、1割未満の増は誤差の範囲とします。

(7)　**産業廃棄物搬出量**

・産業廃棄物搬出量はあくまで工事の受注量に反映されるので、当社としてはいかに多くリサイクルされたかが重要と考えます。現場内を確認しても、産廃の分別は進んでおり無駄に埋め立てゴミを増やさない取組は進んでいると考えますこれからも地産再生材で使用できるように地元の処分業者を使います。

ソーラー発電量

発電場所	単位	2021年	2022年	2023年	対比前年度	評価
小諸市旧仮設図書館屋根	kwh	51,117	47,349	52,845	10.0%	○
御代田カリン道路沿い	kwh	135,336	132,056	128,595	-3.0%	×
合　計	kwh	186,453	179,405	181,440	1.0%	○

＊発電量は天候に左右されます。

６，環境関連法規への違反・訴訟等の有無　　【環境法規制等及び遵守記録】

	承　認	作　成
登　録	堀越 社長	堀越 部長
遵守評価	◎	◎

リスト作成日(改定日): 2015年　4月 1日
順守評価日　　:　　2024年　11月29日

＊当社は、過去3年間に関係当局よる違反･訴訟又は指摘等はありません。

環境法規制等の名称	規制内容			実　施	文書・記録・チェック事項	評価内容
	届出、作業等	適用範囲	適用条件	手続き・遵守事項		
廃　棄　物　処　理　・　リ　サ　イ　ク　ル						
廃棄物処理法	廃棄物の処理法	廃棄物		委託基準①委託契約の締結②契約書の5年間保存	・委託契約書の内容確認（委託金額、産業廃棄物の種類、性状、性状等変更情報の伝達方法等）	**遵守されている**
				委託基準　契約書の5年間保存	・保管期間を確認	**遵守されている**
				・マニフェストの回収・照合（発行後B２,D票90　　日E票180日以内） ・未回収戻り票の報告 ・「交付状況報告」（毎年度６月３０日までに）	・マニフェスト集計表で管理 （回収日の管理、法定事項記載確認） ・産業廃棄物の処理状況確認を行っているか ・交付状況報告はされているか	・マニフェスト集計表で管理されている。 （回収日の管理、法定事項記載確認） ・運搬車の搬入管理・処理確認を行っている。 ・交付状況報告はされている **（遵守されている）**
				・産業廃棄物運搬許可証	・許可証	許可有効年月　2027年　10月30日
			前年度産業廃棄物発生量1000t以上又は特別管理産業廃棄物50t以上	・処理計画の提出 ・実施状況報告 （両方とも毎年度６月３０日までに）	・多量排出事業者による処理計画の提出及び次年度の実施状況報告（県）提出しているか	**該当無し**
			前年度産業廃棄物発生量500t以上1000t未満	・処理計画の提出 ・実施状況報告 （両方とも毎年度６月３０日までに）	・準多量排出事業者による処理計画の提出及び次年度の実施状況報告（県）提出しているか	昨年度は発生量に達していないので提出はしていない。

環境法規制等の名称	規制内容			実　　施	文書・記録・チェック事項	評価内容
	届出、作業等	適用範囲	適用条件	手続き・遵守事項		
リサイクル法	解体工事、土工事、外構工事、型枠工事、木工事	指定副産物	ﾘｻｲｸﾙ法：土砂、ｺﾝｸﾘｰﾄの塊 、ｱｽﾌｧﾙﾄ･ｺﾝｸﾘｰﾄの塊、木材 国土交通省関係：建設発生土、ｺﾝｸﾘｰﾄ塊、ｱｽﾌｧﾙﾄ･ｺﾝｸﾘｰﾄ塊、建設発生木材	・発生抑制（施工方法、資材選択） ・再利用、再生利用、再資源化努力	・施工計画書に基づき適切に実施されているか	各現場ごとに作成された施工計画書の通り適切に実施されている。　（**遵守されている**）
指定副産物利用促進省令	解体工事、土工事、外構工事型枠工事、木工事	指定副産物：：建設発生土、ｺﾝｸﾘｰﾄ塊、ｱｽﾌｧﾙﾄ･ｺﾝｸﾘｰﾄ塊、建設発生木材の利用	【再生資源利用促進計画の作成】 ・体積が1000m3以上である建設発生土 ・重量が200ｔ以上であるｺﾝｸﾘｰﾄ塊、ｱｽﾌｧﾙﾄ･ｺﾝｸﾘｰﾄ塊 、建設発生木材	指定副産物に係る搬出量と再資源化施設への搬出量等計画の作成	・施工計画書に基づき適切に実施されているか	各現場ごとに作成された施工計画書の通り適切に実施されている。　**（遵守されている）**
建設リサイクル法	・解体工事-80㎡以上・新築・増築工事-500㎡以上・修繕・模様替工事-１億円以上・その他の工作物に関する工事（土木工事等）-500万円以上	新築工事及び解体改修工事	【特定建設資材】・ｺﾝｸﾘｰﾄ（ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ版を含む）、木材、ｱｽﾌｧﾙﾄｺﾝｸﾘｰﾄ	・発注者への書面による計画等説明・工事着手する日の７日前までに必要事項を都道府県知事に届け出・発注者へ書面による完了報告 ・分別解体等 ・再資源化等の促進 ・再生資源の使用	・発注者への計画等説明書と完了報告書 ・下請負者への告知書 ・知事への届出書（条例規定）	・発注者へ施工計画書及び竣工書類は提出されている ・下請負者へ詳細な工事内容及び分別方法を記載した契約契約書を交わしている。 ・昨年建設工事11条の対象工事は県に申告し、書類は施主に提出済です。 **（遵守されている）**
家電リサイクル法	特定家庭用機器の排出	特定家庭用機器	【特定家庭用機器】・ﾃﾚﾋﾞ、ｴｱｺﾝ、電気冷蔵庫及び冷凍庫、電気洗濯機	小売店へ料金を支払い引き渡す又は自治体指定の方法で引き取り依頼する	・廃家電の処理は適正か	・小売店に料金を払い引き渡しています。 **（遵守されている）**

環境法規制等の名称	規制内容			実　　施	文書・記録・チェック事項	評価内容
	届出、作業等	適用範囲	適用条件	手続き・遵守事項		
大　気　汚　染						
フロン 排出抑制法	第一種特定製品の管理 解体工事（改修工事）	業務用エアコン及び冷凍冷蔵庫 冷媒用フロンの回収・破壊の措置	業務用エアコン及び冷凍冷蔵庫 エアコン、冷蔵・冷凍機器（ショーケース、自販機、冷水器等々含む）	・監理者判断基準 ・解体前に設置有無を確認、発注者に書面説明 ・機器の廃棄を委託された場合「委託確認書」の受理と写しの保存及びフロン回収業者の「引取証明書」の受理と写しの保存（3年間）	簡易点検 委託確認書、引取証明書	・簡易点検四半期に1回以上 ・昨年はフロンの回収が必要な工事は有りませんでした。
大気汚染防止法	解体工事（改修工事）	アスベスト	特定建築材料：石綿を意図的に含有させたもの又は非意図的でも建築材料の質量の0.1重量%を超えるもののうち、下記のもの ・吹付け石綿 ・石綿を含有する断熱材、保温剤および耐火被覆材（吹付け石綿を除く	左記材料使用されている建築物等を解体、改造又は補修する作業を行う場合には、「特定粉じん排出等作業実施届出」を提出 ・作業の開始の日の14日前（県）	特定粉じん排出等作業実施届出 事前調査の実施 解体中のアスベスト測定	・受注した解体工事の中で事前調査の結果、特定粉じん排出等作業実施届出の必要な解体工事は有りませんでした。
排出ガス対策型建設機械普及促進規程	公共工事	建設機械など	バックホウ、トラクタショベル、発動発電機等	排出ガス対策型であることの確認	仕様書のとおり実施	・レンタル機及び下請け業者の持ち込み機械が、排出ガス対策型であることを搬入時に確認の上、工事を行っている。 **（遵守されている）**
オフロード法	公共工事	建設機械など	バックホウ、トラクタショベル、発動発電機等	排出ガス対策型であることの確認	新規機械購入時に実施	新規機械購入時に実施 **（遵守されている）**
騒　音　・　振　動						
騒音規制法	ブレーカー、削岩機、空気圧縮機等を使用する作業	・特定建設作業 ・適用指定地域		・作業敷地境界にて85デシベル以上の場合は市町村へ7日前までに届け出	届出書 低騒音型機械の使用	・民間工事では届出書の必要な工事はなかったが、公共工事では届け出をしている。 ・関係する工事では低騒音型機械の使用を施工計画して、確認の上使用している。
振動規制法	ブレーカー、振動ローラー等を使用する作業	・特定建設作業 ・適用指定地域		・作業敷地境界にて75デシベル以上の場合は市町村へ7日前までに届け出	届出書	・特に届け出の必要な工事はなかった。

環境法規制等の名称	規制内容			実　　施	文書・記録・チェック事項	評価内容
	届出、作業等	適用範囲	適用条件	手続き・遵守事項		
水　質　汚　濁　（排　水）						
河川法	工事のための濁水等	工事のための濁水等		漁協との協議	事前に報告する。	・昨年は河川工事は受注していなかった
土　壌　汚　染						
セメント及びセメント系の固化材を使用した改良土の六価ｸﾛﾑ溶出試験実施要領	公共工事	地盤改良工事	セメント系固化材使用	六価クロム溶出試験の実施	発注者との協議書 六価クロム対応型の固化材を使用	・昨年はセメント系硬化剤は使用していない
そ　の　他　関　連　法　令						
消防法（危政令）	少量危険物の取扱い	少量危険物の貯蔵・取扱の基準	指定数量とは、 第1石油類 ｶﾞｿﾘﾝ等：200L　ｱﾙｺｰﾙ類：400L 第2石油類 灯油、軽油等：1000L　第3石油類重油等2000L　第4石油類ｼﾘﾝﾀﾞｰ油等6000L	市町村条例 ・指定数量の１／５以上、指定数量未満の場合、あらかじめ消防署に届け出	少量危険物の届出 新規及び場所の変更がないか	当社の灯油のタンク量は490L+490L＝980L　**（遵守されている）**
浄化槽法	点検	浄化槽	定期点検	11条点検を年1回実施	点検報告書 問題点が改善されているか	・定期点検を専門業者により行っている、問題点は常に改善されている。**（遵守されている）**
道路交通法		道路使用許可	道路において工事を行おうとする者又は工事・作業請負人	道路使用前にあらかじめ道路管理者・警察署に届出（1ヶ月毎）	届出書	・工事着手前に必要に応じて届け出及び告知を行っている。**（遵守されている）**
道路法		道路占用許可	工作物・物件又は施設を設け継続して道路を使用する場合	あらかじめ道路管理者に届出	届出書	・工事着手前に必要に応じて届け出及び告知を行っている。**（遵守されている）**
建設業法		長野県知事		建設業の許可	・許可証	許可有効期限　2026年　1月30日

7,代表者による全体の取組状況の評価と見直し・指示の結果

1, 全体的評価

今年度の取組について、昨年度や基準年より良い結果がでている。売り上げも上がっているのでこの数値は出来すぎと思われる。
実際経営者とすれば目標値がそろそろ限界かな？と思っていたが、それを上回る結果に多少なり驚いている。エコアクション活動も10年になり社員マンネリ化を心配していたが、やれば出来ることが分かったのは大変重要です。ただこれ以上の削減で身を切るような削減は、パフォーマンスや品質の低下を招く原因になります。ですから今後革新的な削減方法が確立されないと、これ以上の削減は難しい考えています。減らせ減らせと旗を振るばかりでなく、新しい削減方法を取り入れる努力も必要と思っていますが古い常識に囚われず、新しい取り組み例えば流行りのAIとかの活用なんかも必要かもしれません！
CO2の削減は実際経営に直結していますから、削減は経営者とすればありがたいことですがあまりに社員に負担をかけないように、逆に社員自らやる気になるような削減のプロセスの確立必要でしょう。
環境管理責任者も できそうもない目標や無謀な目標は作り直させること。担当部長も必ず精査効性や結果に結びつくことを目指してほしいです。数値目標とその結果の把握も確認してください。
又、出来たことより出来なかった事の結果とプロセス等の反省点と次につながる目標の展開も重要である。
そして社員のモチベーションの維持に努め今年のような結果が継続できることがきわめて大事である。
環境管理責任者は良くすることはもちろん良い環境を維持することも重要ととらえ、担当部長とミーティングや現場代理人を含めた研究会などをを開催してCO2削減の必要性や燃料費の節約の重要性を確認してほしい。

2, 継続性のある今後の取組

① 地元下請け業者の積極的活用。（**＊地産地消** ）

② 下請け等の月1回の全体朝礼・現場入場事教育での啓蒙活動。

③ 現場への乗り合わせ・燃費の良い車での長距離通勤等の運行計画実施。

④ コンクリート・舗装残材の地元・再生業者への依頼の推進。

⑤ 産業廃棄物の分別の推進（混合物の削減）

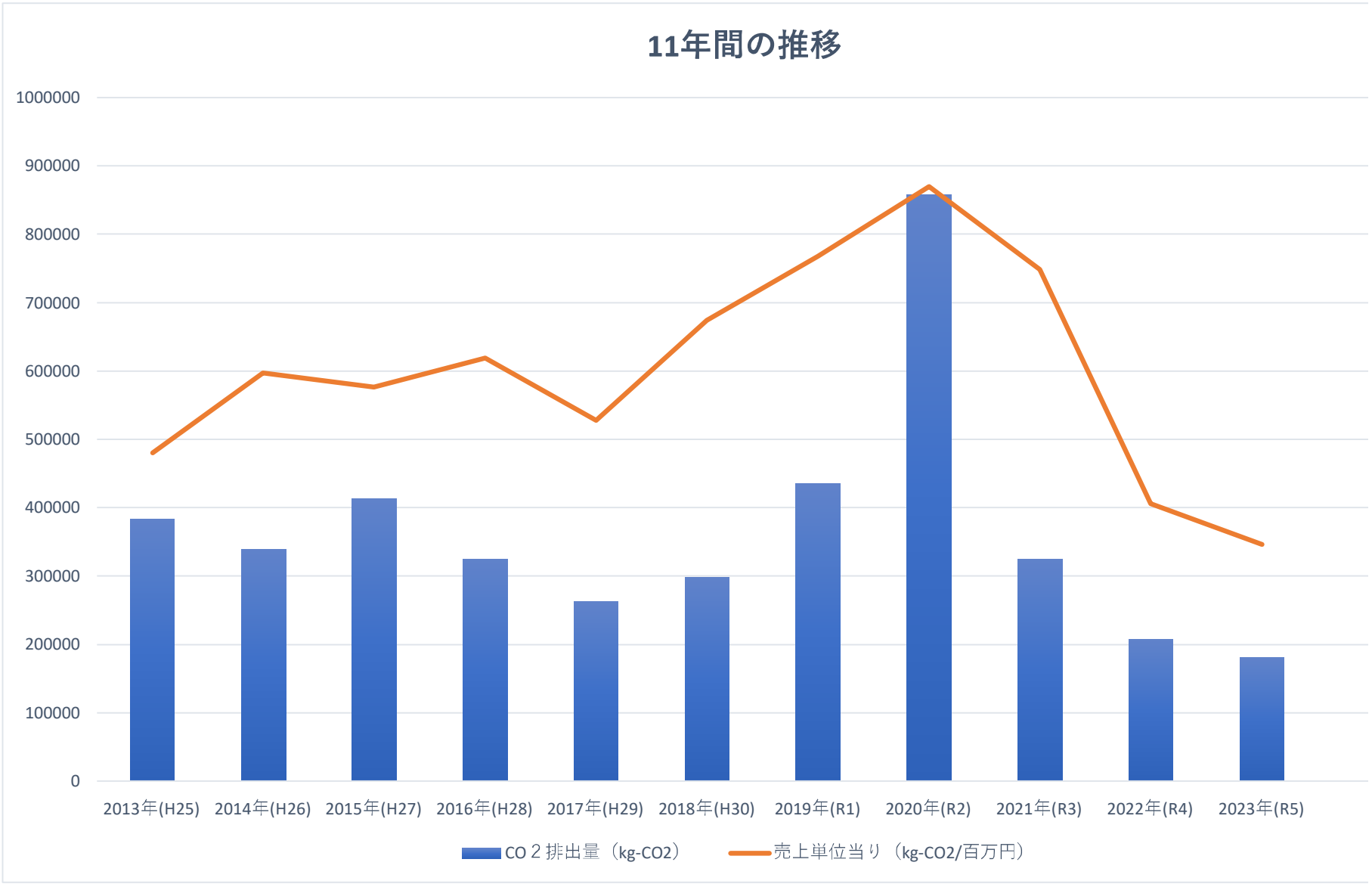
新たな3ヵ年取り組み　項目別目標値

項　　目		単　位	2023年 基準年	2024年 目標値	2025年 目標値	2026年 目標値
電　　力	購入電力	kwh	**43,806.0**	基準年 同　等	基準年 同　等	基準年 同　等
	排出量	kg-CO2	**19,800.3**			
ガソリン	使用量	L	**34,851.0**	同上	基準年 2%削減	基準年 2%削減
	排出量	kg-CO2	**80,854.3**			
軽　　油	使用量	L	**24,756.0**	基準年 2%削減	基準年 2%削減	基準年 3%削減
	排出量	kg-CO2	**63,870.5**			
灯　　油	使用量	L	**6,367.0**	基準年 同　等	基準年 同　等	基準年 同　等
	排出量	kg-CO2	**15,853.8**			
LPガス	使用量	m^3	**101.0**	同上	同上	同上
	排出量	kg-CO2	**303.0**			
上下水道	購入水道量	m^3	185.0	同上	同上	同上
CO2排出量	総排出量	kg-CO2	180,681.9	179,404.5	177,733.4	177,148.7
産業廃棄物排出量		t	395	請負工事量 による	請負工事量 による	請負工事量 による

以上の新たな3ヵ年計画の取り組みを通して、実際のエコに対するアクションの推進をはかり各々がコミットメント
することで自主的に家庭・家族や周りにいる人々又は他社を巻き込み深く浸透する事を期待します。

2024年　11月 29日

代表取締役社長
塚　越　光　一


11年間の推移
1000000
900000
800000
700000
600000
500000
400000
300000
200000
100000
0
2013年(H25)
2014年(H26)
2015年(H27)
2016年(H28)
2017年(H29)
2018年(H30)
2019年(R1)
2020年(R2)
2021年(R3)
2022年(R4)
2023年(R5)
CO２排出量（kg-CO2）
売上単位当り（kg-CO2/百万円）